



官民連携まちづくり ～廃墟再生マルシェが見つけた温泉街の魅力～

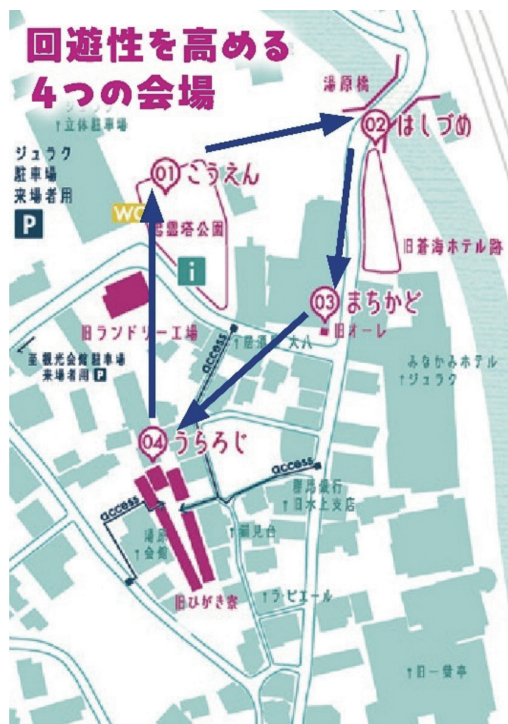
みなかみ町 企画課

みなかみ町では、東京大学大学院、株式会社群馬銀行、株式会社オープンハウスグループと「産官学金」包括連携協定を2021年に締結し、水上温泉街の廃墟再生プロジェクトに取り組んでいます。温泉街の5つの「ヒロバ」(①水上駅・SL 広場周辺 ②忠霊塔公園・旧蒼海ホテル周辺 ③旧一葉亭・温泉公園周辺 ④観光会館・水上公民館周辺 ⑤道の駅水紀行館周辺)から“まち”を再生することを計画しており、③旧一葉亭・温泉公園周辺では先行して大規模な廃墟の解体・減築と活用・再生に向けた議論が進められています。



作戦会議の様子

これらの取組を発信し、エリアの新たな魅力を掘り起こすことを目的として、2024年9月22日(日)・23日(祝月)の2日間に、3回目となる「廃墟再生マルシェ」を開催しました。今回のマルシェは ②忠霊塔公園・旧蒼海ホテル周辺の「こうえん」「はしづめ」「まちかど」「うらろじ」の4つの会場で開催し、来場された方々にみなかみの自然と食と体験を楽しんでいただきながら、各会場や温泉街を回遊していただくことを目指しました。今回も東京大学の学生たちが中心となって会場作りや出店者との調整など様々な事前準備を重ね、みなかみの将来性を感じさせる魅力的な“まち”が作り出され、2日間で約4,500人の方々が訪れるなど、温泉街は大いに賑わいました。



開催に向けては、地域に暮らす方や温泉街でホテルや飲食店などに従事する方などを交えた作戦会議を計6回開催し、地域の方々と一緒に作り上げていくことを大事にしました。

【こうえん】

忠霊塔公園と旧ランドリー工場からなる「こうえん」会場では、日中はお昼ご飯を食べたり、ワークショップを楽しむ家族連れで賑わい、夕方には地元の方々がビールを片手にベンチでくつろぐ姿が見られました。また隣接する20年以上倉庫となっていた旧ランドリー工場は、部分的にリノベーションを行い、おしゃれなカフェと旧一葉亭の再生のあゆみを展示したギャラリーへと生まれ変わりました。



【はしづめ】

湯原橋のたもとから旧蒼海ホテル跡の一带に作られた「はしづめ」会場では、来場者の方々が利根川の川音を聞き、谷川岳を眺めながら、ティータイムを楽しみました。



【まちかど】

かつてはアイスクリーム屋さんだった「オーレ」は長い年月を経て、街角で人々が出会うカフェに生まれ変わりました。古さと新しさが調和した内装が東大チームと地域住民のワークショップにより生み出されました。



【うらろじ】

第1回の廃墟再生マルシェから会場となっている旧ひがき寮では、2024年6月から、「まるごとアトリエプロジェクト(仮)」がスタートし、ワークショップ形式で内装を改修したり、土間作りもチャレンジするなど、ものづくりやアートなど「モノ・コトが生まれる場所」として活用する取り組みが進んでいます。廃墟再生マルシェ当日は、来場者が部屋のふすまの絵付けをするワークショップを体験しました。

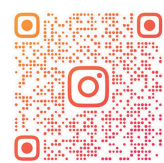


報告会の様子

今回で3回目となった廃墟再生マルシェ。10月に開催された成果報告・意見交換会では、マルシェの今後の継続方法や各会場の将来像、移住や温泉街への出展希望者へのアプローチ、将来充実させるべき温泉街の施設や機能などについて話し合いが行われました。来年には「温泉街ガイドライン(仮)」を制作し、より魅力的な温泉街の再生に取り組んでいきます。

会場で実施したアンケートにおけるマルシェに対する評価、温泉街の印象、今後の関わり方についての主な回答は次のとおりです。

- 会場として利用されている建物や場所、裏路地が魅力的だった
- 廃墟再生の取り組みやコンセプトが共感できた
- 廃墟や空き家などを活用して魅力的な温泉街をつくる可能性を感じた
- 歴史を知ることによって温泉街の風景が魅力的に感じられた
- 運営ボランティア、出展者として関わりたい
- みなかみ町への移住、温泉街への出店を考えたい



@HAISAI_MINAKAMI
廃墟再生プロジェクト
Instagram